

全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

2006年42週

- 発生動向の概況
- 定点医療機関からのコメント
- 全数把握対象疾患 患者報告数
- 五類定点把握対象疾患 患者報告数
  - 男女別
  - 推移グラフ
  - 保健所別
  - 保健所別(定点当たり)
  - 年齢階級別
- 病原体・抗体検査情報
  - 週別検出状況
  - 臨床診断名別検出結果
- 感染症豆知識「ブルセラ症」

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

e-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



# 全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

## 発生動向の概況 《2006年42週》

### (全数把握対象疾患)

- 細菌性赤痢の3症例は、第41週の1症例を含め、いずれも10月上旬に国内で行われたイベントを利用しており、現在当該イベント施設を管轄する保健所が調査を行っている。

区分	疾患	報告 件数	情 報 (検出病原体・血清型・推定感染経路等)	推定感染地
二類	細菌性赤痢	3	ソネ菌	国内
三類	腸管出血性大腸菌 感染症	6	O157 VT2 5件 O157 VT1・VT2 1件 推定感染経路:経口感染 3件、 接触感染 2件、不明 1件	国内
四類	コクシジオイデス症	1	肺組織からの鏡検による病原体検出 推定感染経路:塵埃感染	米国
五類	アメーバ赤痢	1	腸管アメーバ症 推定感染経路:経口感染	中国
	ウイルス性肝炎	1	B型 推定感染経路:異性間性的接触	国内
	後天性免疫不全 症候群	6	無症候性キャリア 3件、AIDS 1件、その他 2件 推定感染経路:同性間性的接触 3件、 異性間性的接触 2件、不明 1件	国内
	梅毒	2	早期顕症梅毒Ⅱ期 1件 晩期顕症梅毒 1件 推定感染経路:不明	国内
	バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	2	症状:発熱、菌血症 遺伝子型:VanA型 1件、不明 1件 推定感染経路:不明	国内

(推定される感染地は医師の届出によるものです)

### (定点把握対象疾患 ー小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点ー)

- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎は冬に向けて増加傾向にある。昨年同時期に比べ報告数が多くなっていることから注意が必要である。

## (検査情報)

臨床診断名	患者年齢	検査種別	検出病原体	検査法
急性咽頭炎	9	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス2型	遺伝子
急性咽頭炎	0	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
咽頭炎	不明	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
滲出性扁桃炎	6	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	
急性肺炎、ウイルス感染症	11	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	
肺炎	18	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス2型、 エンテロウイルス	
喘息性気管支炎	0	咽頭拭い液	RSウイルス	
ムンプス髄膜炎	4	髄液	ムンプスウイルス	
髄膜炎	1M	髄液	エンテロウイルス	
けいれん重積	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
不明熱	4	咽頭拭い液	EBウイルス	
不明熱	7	咽頭拭い液	アデノウイルス	
耳下腺炎	8	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
不明発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
急性胃腸炎	1	ふん便	ノロウイルス	
流行性耳下腺炎	3	咽頭拭い液	エコーウイルス18型	
急性腸炎	1	糞便	エコーウイルス24型	分離・ 同定
腸管出血性大腸菌感染症疑い#	10	糞便	腸管出血性大腸菌O157 VT1・VT2	
腸管出血性大腸菌感染症疑い#	31	糞便	腸管出血性大腸菌O157 VT2	
腸管出血性大腸菌感染症疑い#	54	糞便	腸管出血性大腸菌O157 VT2	
腸管出血性大腸菌感染症 #	10	糞便	腸管出血性大腸菌O157 VT1・VT2	

# 全数把握対象疾患となる報告症例からの検体

\* 遺伝子検査で既に報告済みの検体を含む

### 腸管出血性大腸菌 菌株検査情報

血清型	産生毒素			合計
	VT1	VT2	VT1・VT2	
O157		8	1	9

### ウイルス性胃腸炎(集団事例)検査情報

検査区分	検査 試料数	陽性数	ノロウイルス		サポ ウイルス	ロタ ウイルス
			G I	G II		
施設内感染疑いまたは食中毒等	160	26	0	26	0	0

## 定点医療機関からのコメント

世田谷保健所

- ・手足口病の2例(1歳・女1名、6歳・女1名)は姉妹。神奈川県にて感染。

多摩小平保健所

- ・マイコプラズマ肺炎が発生しました(1歳・男女各1名、2歳・女1名、3歳・男女各1名、4歳・男3名、6歳・女1名)。

## 全数把握対象疾患 患者報告数 2006年42週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		39週	40週	41週	42週	年累計	42週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ		1			8	1	45
	細菌性赤痢	3	3	3	3	55	3	403
	ジフテリア							
	腸チフス					16		60
	パラチフス					11		21
三類	腸管出血性大腸菌感染症	11	11	7	6	242	73	3374
四類	E型肝炎					3		56
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎			1		26	4	292
	エキノコックス症					1		18
	黄熱							
	オウム病			1		4		19
	回帰熱							
	Q熱							1
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症				1	1		1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病						1	179
	デング熱		1			14	2	45
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱						1	29
	日本脳炎						2	7
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	ブルセラ症					1		4
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							2
	マラリア			1		13		52
	野兎症							
ライム病					2	1	10	
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症	2				53	8	409	
レプトスピラ症					4	1	14	
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	4	8		1	153	5	598
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1			1	29	3	228
	急性脳炎					5	2	135
	クリプトスポリジウム症					5		14
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1			14	2	139
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					12	1	92
	後天性免疫不全症候群	7	8	7	6	353	11	1048
	ジアルジア症			1		21	2	72
	髄膜炎 菌性髄膜炎					1		12
	先天性風しん症候群							
	梅毒	1	5	2	2	106	6	499
	破傷風	1				7	1	96
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1		2	14	1	59

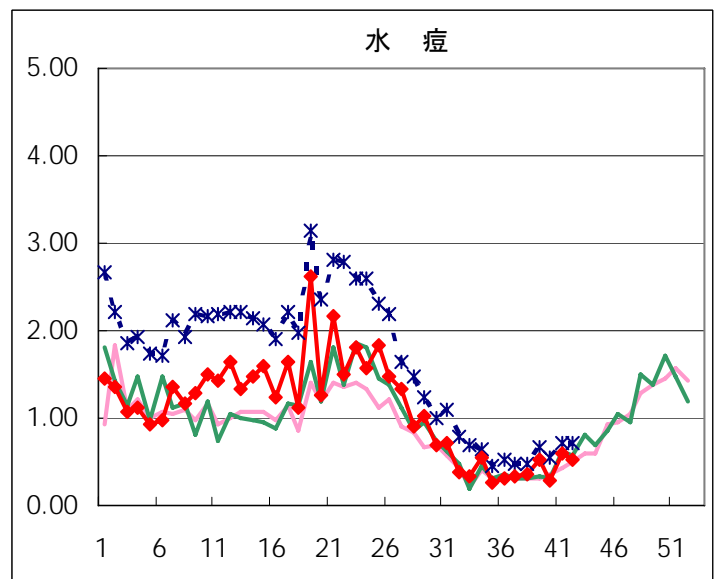
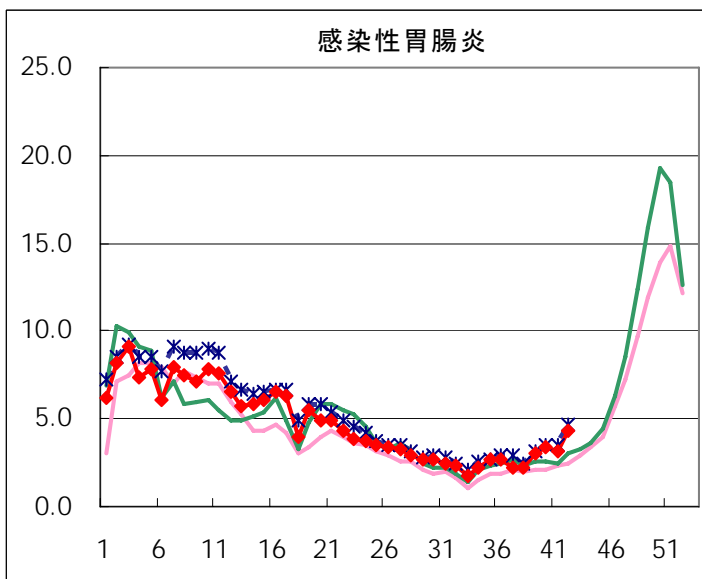
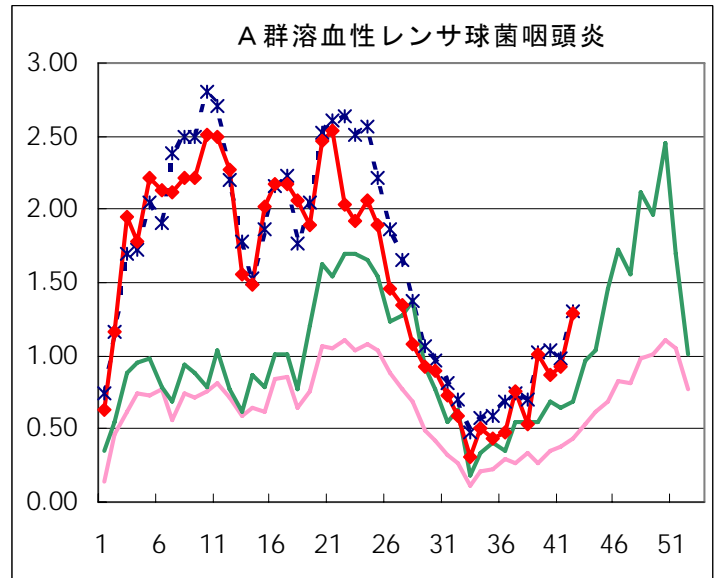
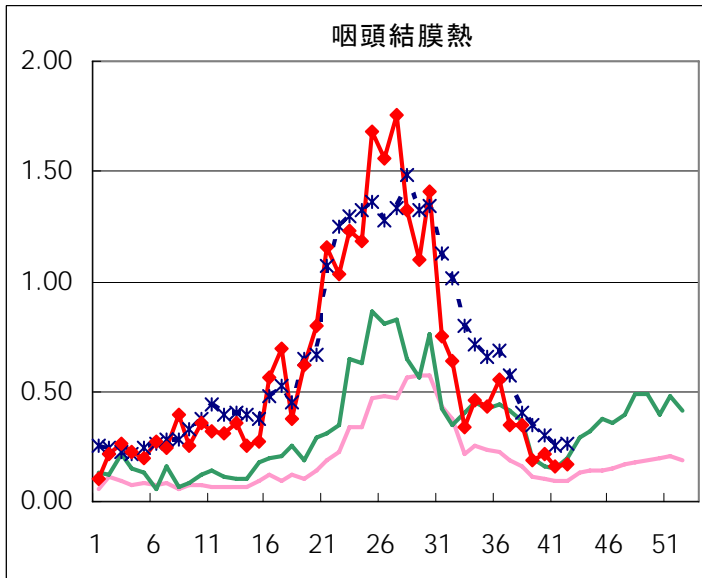
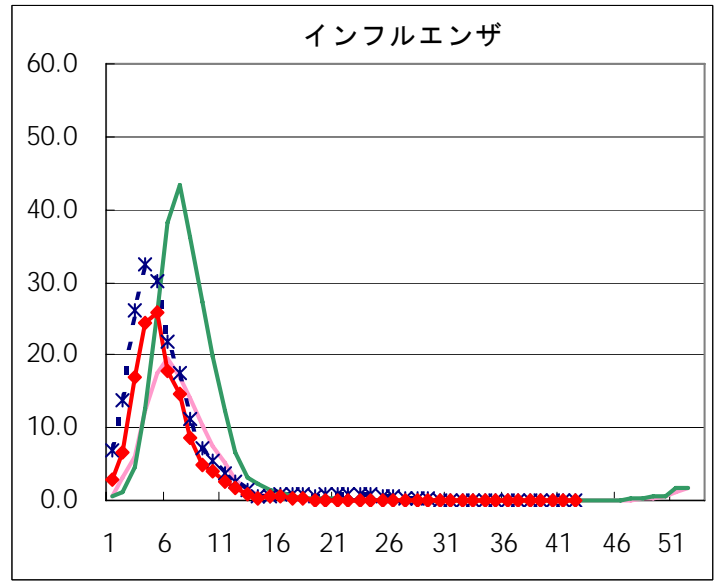
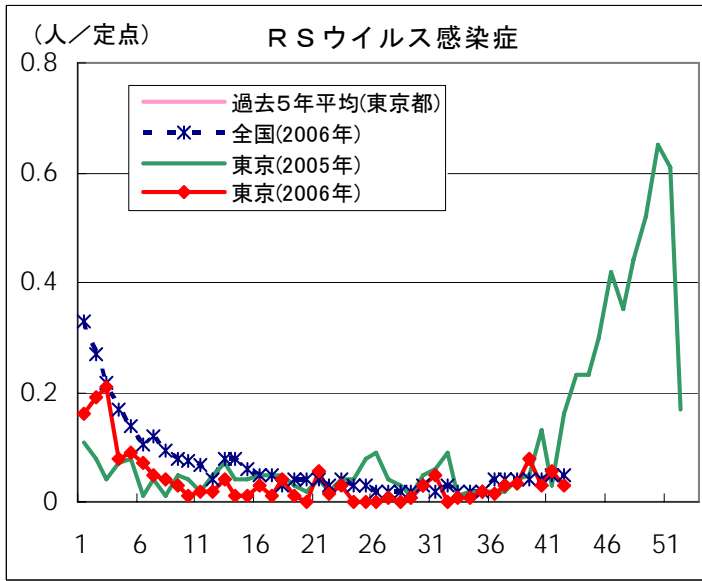
2006/10/25集計

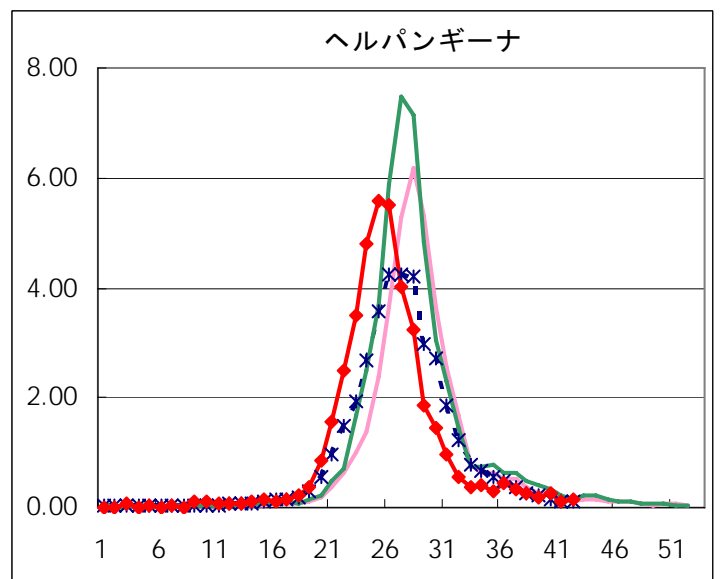
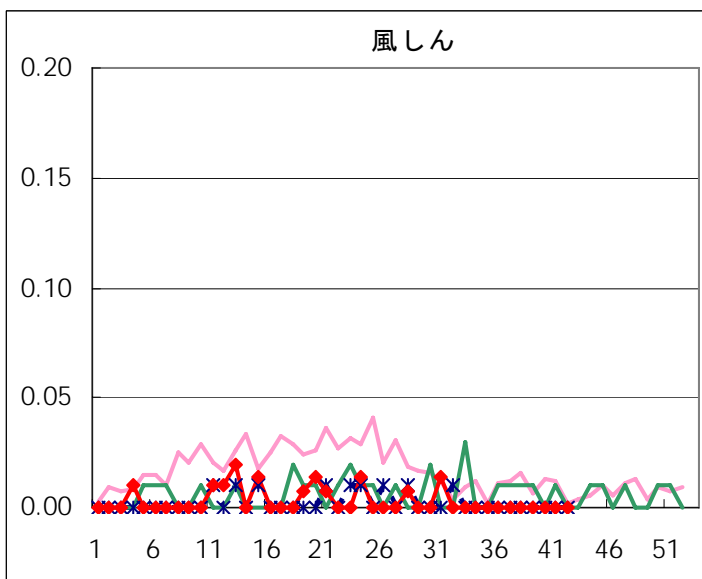
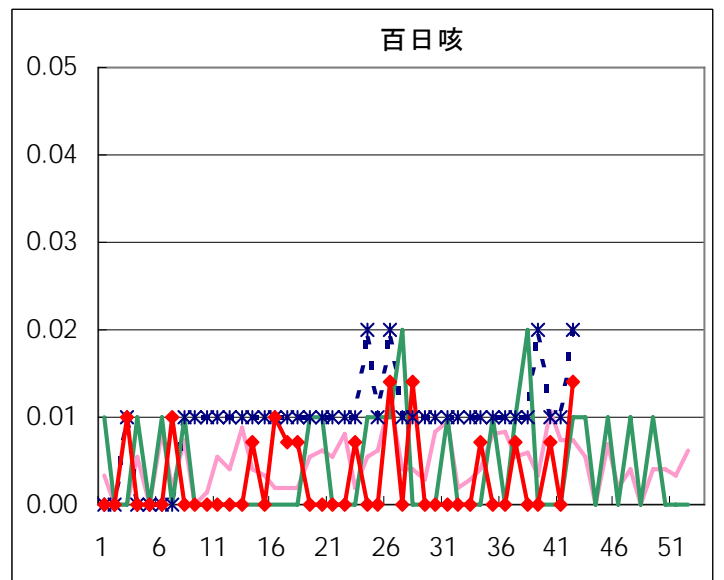
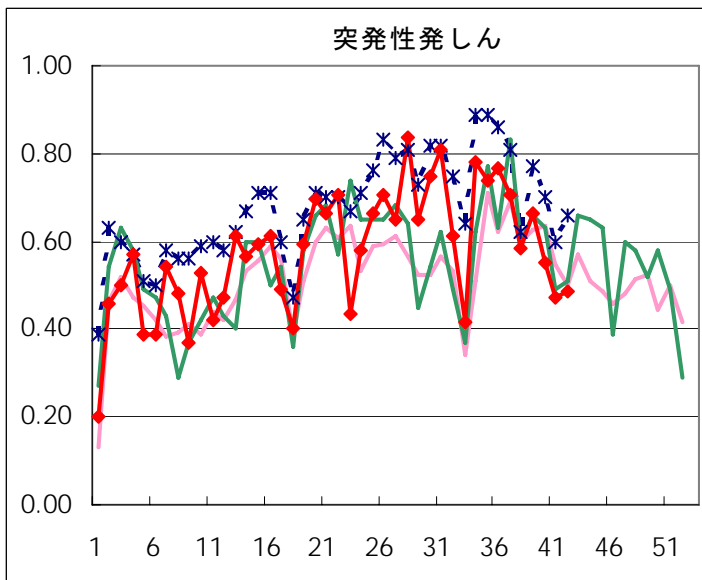
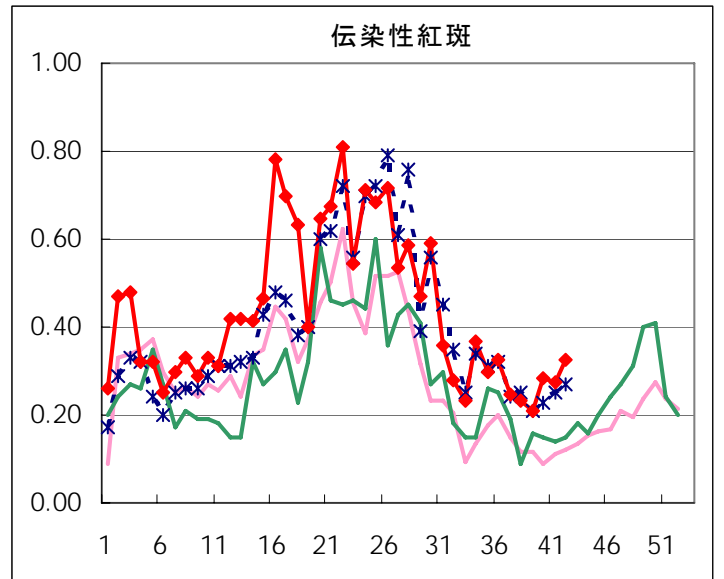
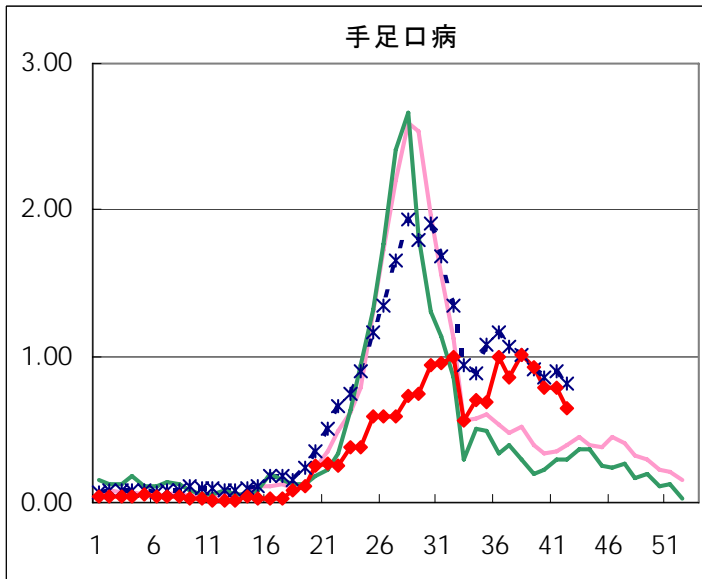
## 五類定点把握対象疾患 患者報告数【男女別】 2006年42週

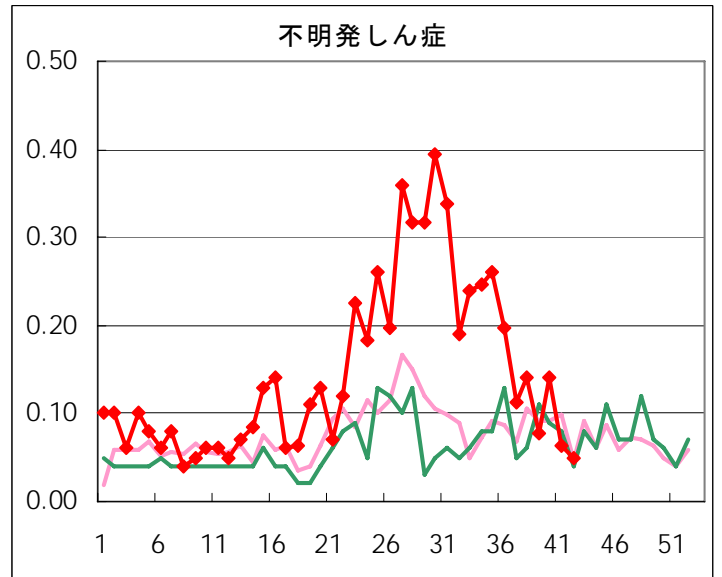
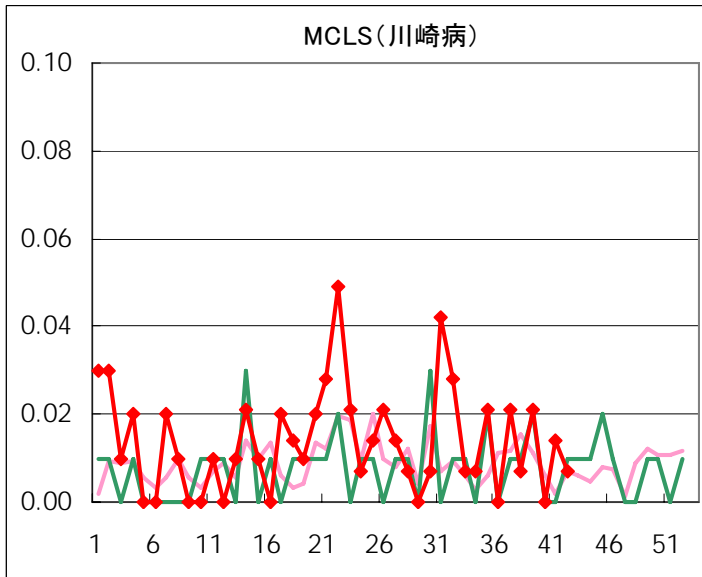
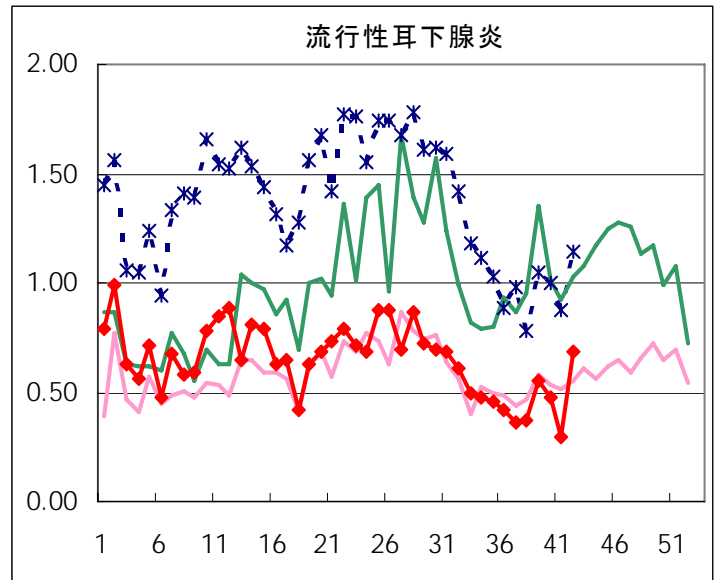
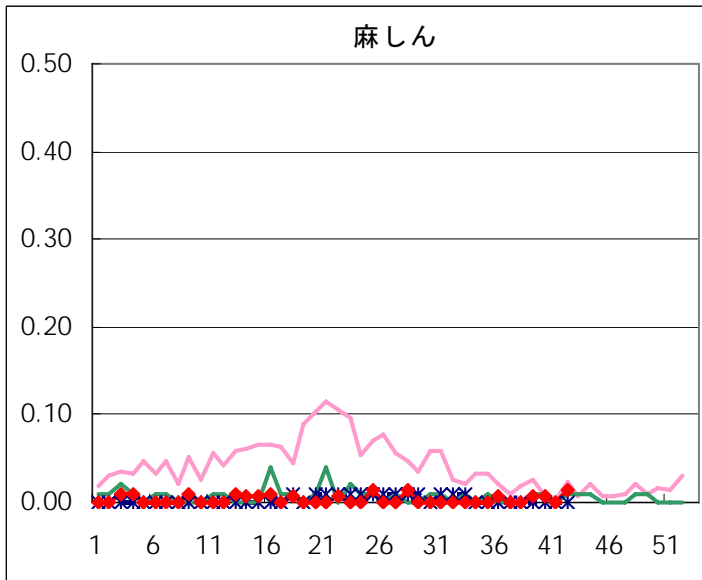
疾病名	性	2006年				4週合計	年累計
		39	40	41	42		
RSウイルス感染症	男	6	3	6	2	17	136
	女	5	1	2	2	10	97
インフルエンザ	男			1		1	12,056
	女						11,871
咽頭結膜熱	男	20	18	12	14	64	1,921
	女	7	13	11	10	41	1,649
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	90	58	75	98	321	4,870
	女	54	66	57	85	262	4,236
感染性胃腸炎	男	224	262	247	321	1,054	14,997
	女	206	220	209	288	923	13,631
水痘	男	40	20	47	38	145	3,509
	女	35	20	38	35	128	3,176
手足口病	男	75	59	68	49	251	1,283
	女	57	52	43	43	195	1,037
伝染性紅斑	男	12	18	20	24	74	1,302
	女	18	22	19	22	81	1,298
突発性発しん	男	52	43	36	32	163	1,796
	女	42	35	31	37	145	1,630
百日咳	男		1		1	2	10
	女				1	1	7
風しん	男						9
	女						9
ヘルパンギーナ	男	15	20	6	10	51	3,013
	女	11	16	11	12	50	2,809
麻しん(成人麻しんを除く)	男	1	1		1	3	14
	女				1	1	5
流行性耳下腺炎	男	45	40	20	50	155	2,048
	女	34	28	22	47	131	1,846
不明発しん症	男	5	12	4	4	25	448
	女	6	8	5	3	22	420
MCLS	男	2			1	3	44
	女	1		2		3	40
急性出血性結膜炎	男						6
	女						2
流行性角結膜炎	男	4	5	2	4	15	232
	女	6	5	3	4	18	190
細菌性髄膜炎	男	1	1	3	1	6	9
	女						4
無菌性髄膜炎	男	1		1		2	22
	女	1				1	7
マイコプラズマ肺炎	男	1	3	5	7	16	71
	女	3	13	4	7	27	69
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	男				1	1	4
	女	1				1	2
成人麻しん	男						
	女						

# 五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2006年42週現在

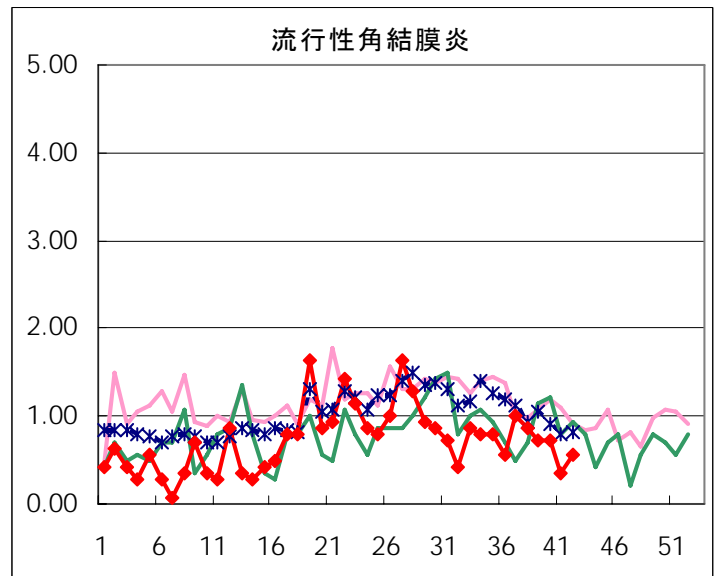
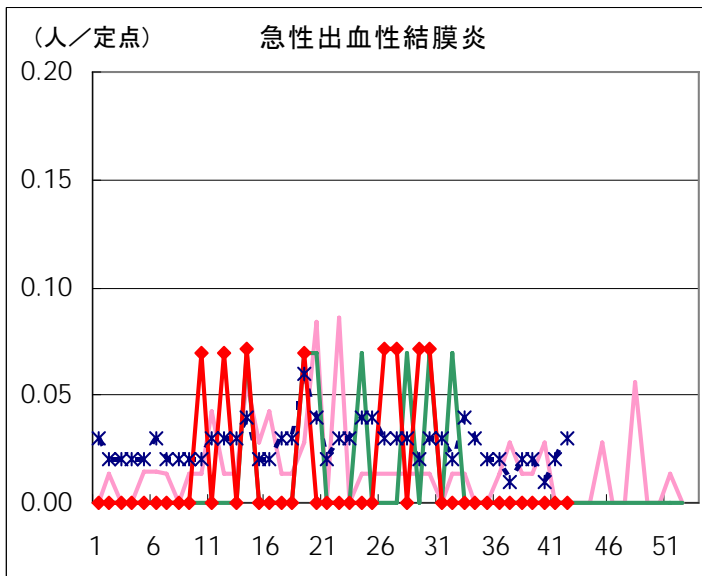
## ◆ 小児科・インフルエンザ定点





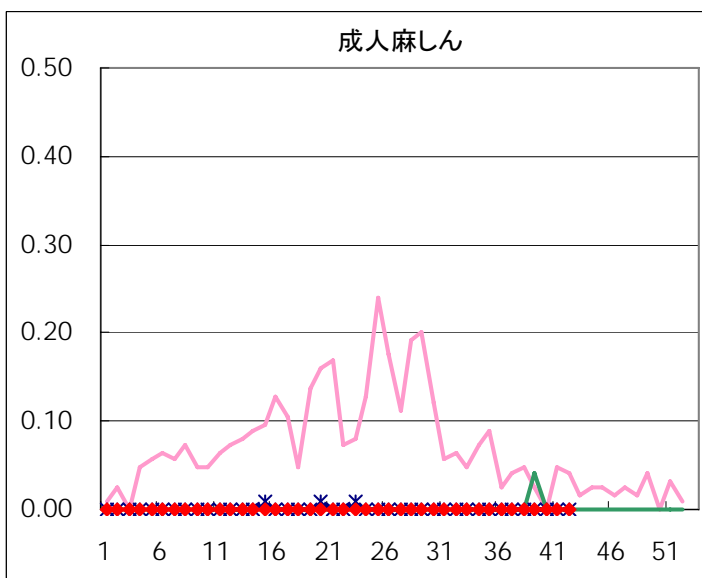
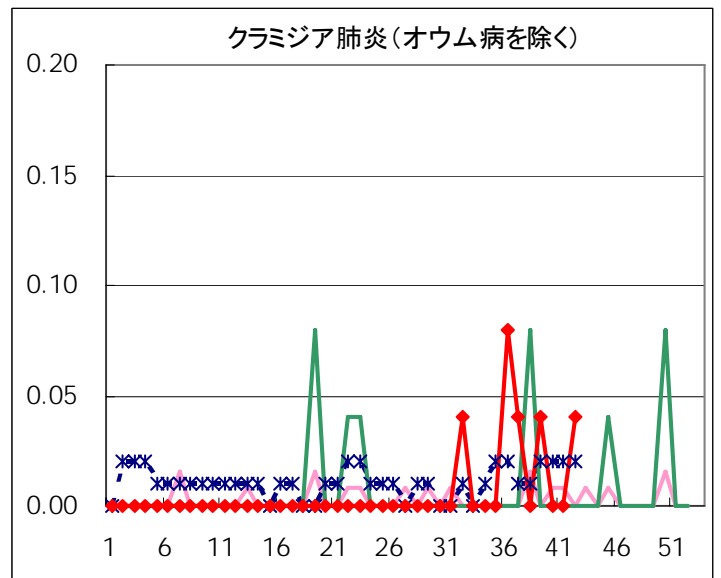
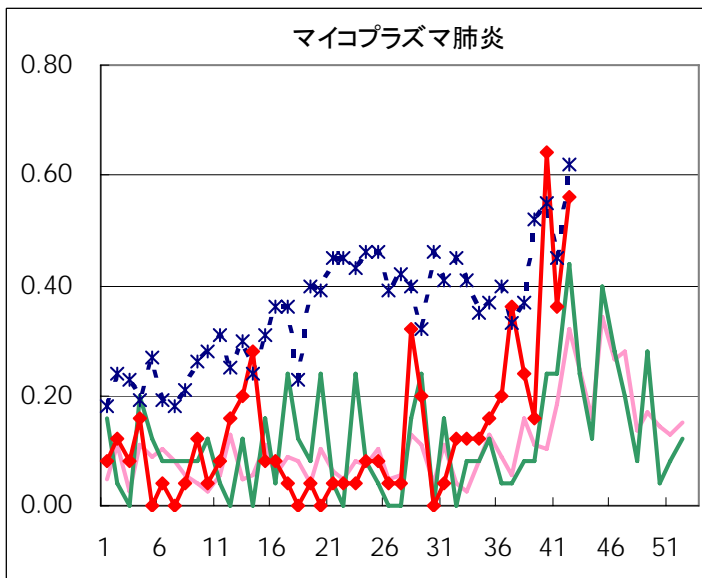
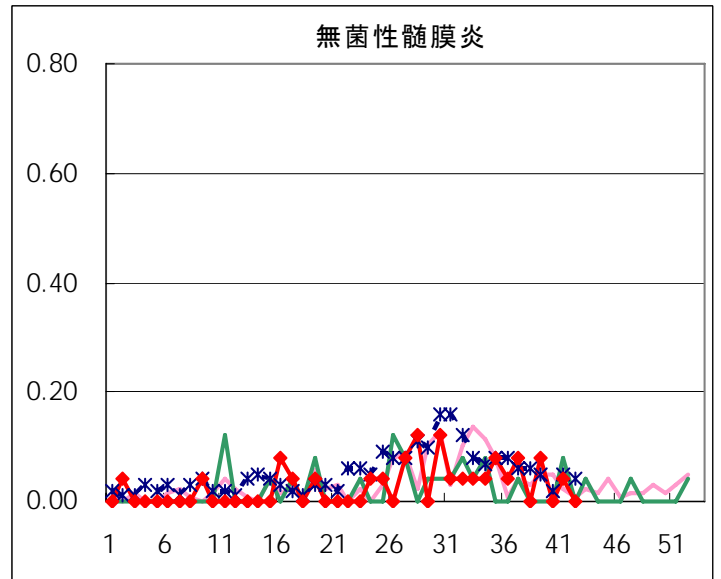
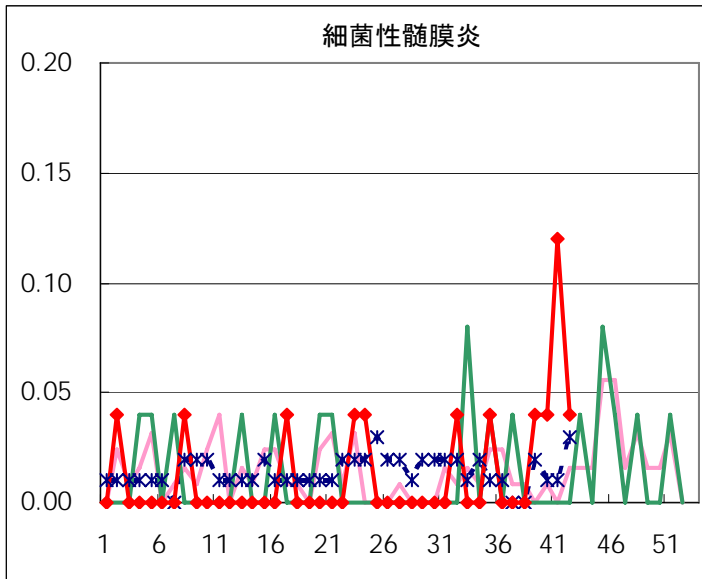


◆ 眼科定点





◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)		
定点種別	疾患	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基幹	急性脳炎	25
	細菌性髄膜炎	
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
	成人麻しん	
小児科	上記を除く疾病	142

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2006年42週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田					3			3		
中央区			6	1	6		8		1	
みなと				19	15		1		2	
新宿区				4	17	5				
文京					3	1	1	2		
台東				30	8	1	3	2		
墨田区				6	7	1	1	2	1	
江東区				1	22	1	11	1	2	
品川区				13	39	5		3	4	
目黒区					8	1		1		
大田区			2	14	48	2	2	2	2	1
世田谷				8	37	3	5	4	6	
渋谷区			1	1	13	1	1		2	
中野区	2			7	20	1	3		3	
杉並			4	13	33		6	1	2	
池袋						1			1	
北区				3	11	4	5		7	
荒川区			1	2	8	6			1	1
板橋区					15	1	3		2	
練馬区				12	5	1	3	1	3	
足立				2	12	1	8	3	2	
葛飾区				2	11	9	3	1	8	
江戸川			1	5	37		1	5	4	
西多摩				1	56	8	2	3	1	
八王子				4	27	1	5	2	1	
南多摩				1	41	1	2	1	4	
町田				2	26	6	4			
多摩立川				1	18	2	4	1		
多摩府中				12	22	5	6	4	4	
多摩小平	2		9	9	41	5	4	4	6	
島しょ				10						

東京都合計	4	-	24	183	609	73	92	46	69	2
定点当り報告数	0.03	-	0.17	1.29	4.29	0.51	0.65	0.32	0.49	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2006年42週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田									6
中央区		2		6					30
みなと				3		3			43
新宿区				3		2			31
文京						1			8
台東		2		4					50
墨田区				1					19
江東区				1		1			40
品川区				3					67
目黒区		1		3					14
大田区		1		9					83
世田谷		1		5			3		72
渋谷区				1				1	21
中野区				3					39
杉並				5					64
池袋				3					5
北区		1		4					35
荒川区									19
板橋区			2	1					24
練馬区		2							27
足立									28
葛飾区				6					40
江戸川		1		6					60
西多摩				3					74
八王子				4			2		46
南多摩		5		1					56
町田		2		7			2		49
多摩立川						1			27
多摩府中				10					63
多摩小平		4		3					87
島しょ				2					12

東京都合計	-	22	2	97	-	8	7	1	1,239
定点当り報告数	-	0.15	0.01	0.68	-	0.57	0.05	0.01	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2006年42週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田					0.75			0.75		
中央区			2.00	0.33	2.00		2.67		0.33	
みなと				3.17	2.50		0.17		0.33	
新宿区				0.67	2.83	0.83				
文京					1.00	0.33	0.33	0.67		
台東				10.00	2.67	0.33	1.00	0.67		
墨田区				2.00	2.33	0.33	0.33	0.67	0.33	
江東区				0.33	7.33	0.33	3.67	0.33	0.67	
品川区				2.17	6.50	0.83		0.50	0.67	
目黒区					2.67	0.33		0.33		
大田区			0.22	1.56	5.33	0.22	0.22	0.22	0.22	0.11
世田谷				1.00	4.63	0.38	0.63	0.50	0.75	
渋谷区			0.25	0.25	3.25	0.25	0.25		0.50	
中野区	0.33			1.17	3.33	0.17	0.50		0.50	
杉並			0.67	2.17	5.50		1.00	0.17	0.33	
池袋						0.20			0.20	
北区				0.75	2.75	1.00	1.25		1.75	
荒川区			0.50	1.00	4.00	3.00			0.50	0.50
板橋区					2.50	0.17	0.50		0.33	
練馬区				2.40	1.00	0.20	0.60	0.20	0.60	
足立				0.50	3.00	0.25	2.00	0.75	0.50	
葛飾区				0.50	2.75	2.25	0.75	0.25	2.00	
江戸川			0.25	1.25	9.25		0.25	1.25	1.00	
西多摩				0.20	11.20	1.60	0.40	0.60	0.20	
八王子				2.00	13.50	0.50	2.50	1.00	0.50	
南多摩				0.33	13.67	0.33	0.67	0.33	1.33	
町田				1.00	13.00	3.00	2.00			
多摩立川				0.17	3.00	0.33	0.67	0.17		
多摩府中				1.20	2.20	0.50	0.60	0.40	0.40	
多摩小平	0.33		1.50	1.50	6.83	0.83	0.67	0.67	1.00	
島しょ				10.00						

東京都合計	4	-	24	183	609	73	92	46	69	2
定点当り報告数	0.03	-	0.17	1.29	4.29	0.51	0.65	0.32	0.49	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2006年42週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田								
中央区		0.67		2.00				
みなと				0.50		3.00		
新宿区				0.50		1.00		
文京						1.00		
台東		0.67		1.33				
墨田区				0.33				
江東区				0.33		1.00		
品川区				0.50				
目黒区		0.33		1.00				
大田区		0.11		1.00				
世田谷		0.13		0.63			0.38	
渋谷区				0.25				0.25
中野区				0.50				
杉並				0.83				
池袋				0.60				
北区		0.25		1.00				
荒川区								
板橋区			0.33	0.17				
練馬区		0.40						
足立								
葛飾区				1.50				
江戸川		0.25		1.50				
西多摩				0.60				
八王子				2.00			1.00	
南多摩		1.67		0.33				
町田		1.00		3.50			1.00	
多摩立川						1.00		
多摩府中				1.00				
多摩小平		0.67		0.50				
島しょ				2.00				

東京都合計	-	22	2	97	-	8	7	1
定点当り報告数	-	0.15	0.01	0.68	-	0.57	0.05	0.01

## 五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2006年42週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～5か月	1				5	1			4
～11か月			1	5	46	3	6	1	22
1歳	1		1	6	93	14	23	3	38
2歳			3	11	60	12	18	5	5
3歳	1		4	16	52	10	10	6	
4歳	1		5	26	58	10	10	8	
5歳			3	33	39	12	11	10	
6歳			2	23	42	4	6	3	
7歳			1	12	35	3	1	2	
8歳			1	8	14	1	2	3	
9歳			2	8	13	2	3	1	
10～14歳				13	51		1	2	
15～19歳				1	5		1		
20～29歳			1	21	96	1		2	
30～39歳									
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	4	-	24	183	609	73	92	46	69
先週比	-4	-1	1	51	153	-12	-19	7	2

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～5か月			1						
～11か月			5		1			3	
1歳			3		7		1	2	1
2歳			5	1	13				
3歳					12			2	
4歳			3		18				
5歳					20				
6歳			1		6				
7歳					8				
8歳			1	1	6				
9歳					1				
10～14歳	1				3				
15～19歳									
20～29歳	1		3		2		3		
30～39歳							2		
40～49歳							1		
50～59歳							1		
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	2	-	22	2	97	-	8	7	1
先週比	2	0	5	2	55	0	3	-2	-1

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

# 病原体・抗体検査情報

週別検出状況 2006年35週～42週

検出病原体・抗体		検体採取週								合計
		2006年								
		35	36	37	38	39	40	41	42	
ウイルス	アデノ	2	5	6	2	6	1	4	1	27
	ライノ		1					2		3
	ポリオ									
	コクサッキーA群				1					1
	コクサッキーB群	2	1				1			4
	エコー	6	2			2		1	2	13
	エンテロ71			1						1
	その他のエンテロ	11	7	6	7	4	1	9	6	51
	単純ヘルペス			1				2		3
	水痘・帯状疱疹									
	ヘルペス6/7	2	3	2	3	1	2	4	1	18
	EB	1	1	1	2	2		1	1	9
	サイトメガロ				2					2
	ムンプス		1	1	2		2		1	7
	麻疹									
	風しん									
	パルボB19					1				1
	RS				1		1		1	3
	ノロ	10	23	5	18	24	1	6	27	114
	ロタ	1	2				1			4
インフルエンザAソ連型										
インフルエンザA香港型										
インフルエンザB型										
デング				1		1			2	
その他のウイルス	2				1	1	1	2	7	
細菌	カンピロバクター						1			1
	サルモネラ								1	1
	腸管出血性大腸菌	18	13	5	9	8	13		13	79
	その他の腸管系病原菌	1	3			2	3			9
	溶血性レンサ球菌			6		3	3	4		16
	MRSA						1	2		3
	MSSA					1				1
	その他の細菌									
その他の病原体		3	1	2		5	7	3	2	23

臨床診断名別検出結果 2006年35週～42週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	合計
搬入検体数		45	45	616	34			6	1	6	1	25	10				223	
アデノ		16	3	2				2									4	27
ライノ												1					2	3
ポリオ																		
コクサッキーA群								1										1
コクサッキーB群		2			1												1	4
エコー		1		1	2							2	1				6	13
エンテロ71					1													1
その他のエンテロ		7	3	4	11			1	6			3	4				12	51
単純ヘルペス												1					2	3
水痘・帯状疱疹																		
ヘルペス6/7			1		1							11					5	18
EB		3											1				5	9
サイトメガロ																	2	2
ムンプス					3								3				1	7
麻疹																		
風しん																		
パルボB19									1									1
RS		1	2															3
ノロ				114														114
ロタ				4														4
インフルエンザAソ連型																		
インフルエンザA香港型																		
インフルエンザB型																		
カンピロバクター				1														1
サルモネラ				1														1
腸管出血性大腸菌				1													78	79
その他の腸管系病原菌				2													7	9
溶血性レンサ球菌																	16	16
その他の病原体		7	17														12	36
備考	この表の「その他の病原体」は「週別検出状況」の表にある「デング」「その他のウイルス」「MRSA」「MSSA」「その他の細菌」と「その他の病原体」の合計である。																	



## <感染症豆知識>

### ブルセラ症

ブルセラ症はブルセラ菌の感染によって人と動物の双方に多大な被害をもたらす人獣共通感染症である。ブルセラ菌はクリミア戦争に従事した兵士の中に流行した患者から 1884 年初めて分離した Dr. Bruce に因んだもので、グラム陰性の通性嫌気性小桿菌で現在6菌種が知られ、緬山羊を宿主とする人に対する病原性が最も強い *Brucella Melitensis* (マルタ熱)、牛、豚の流産胎児から分離された *B.abortus*、*B.suis*、そして緬羊の *B.ovis*、砂漠樹ネズミの *B.neotomae*、犬の *B.canis* が分離された。流産に接する機会の多い畜主、獣医師が職業病として感染する。一般人は感染した牛や山羊の未殺菌乳やフレッシュチーズの摂取により感染する。感染後、まず局所のリンパ節に数週から数ヶ月間潜伏し、人は菌血症によって、全身に移行し、発熱、夜間発汗、重度の倦怠感、食欲不振、体重減少、頭痛、関節痛を示す。典型的な場合、発熱の経過が特徴的で1～2週の平熱期と波状熱が見られる。時に骨・関節系、心血管系(心内膜炎)、神経系に合併症を起こすが死亡率は低い。動物の雌では胎盤での菌の増殖による胎盤炎(死流産となる)、乳汁への排菌、雄では精巣炎を呈する。犬の *B.canis* は病原性がかなり弱い、犬が伴侶動物のため、基礎疾患などによる免疫力が低下した人に対して注意が必要である。治療にはドキシサイクリンにリファンピシンやキノロン系などを併用する必要がある。なお、本菌は細胞内寄生のため再燃性が高く、抗菌薬は複数を経口投与する。ブルセラ症は感染症法4類感染症全数把握疾患であり、また、家畜伝染病予防法の法定伝染病に指定されている。

(文責・日本大学医学部生物学教室助教授 池田忠生)